

茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体構成員

参考資料1

	団体名	代表者氏名	出欠	活動状況
1	茅ヶ崎市地域福祉課	タキタ ミホ 瀧田 美穂	○	
2	茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課	マツオ ユカ 松尾 由香	○	
3	第1層支え合い推進員 (茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課)	ホンダ ユウコ 本多 祐子	○	
4	第2層支え合い推進員 (社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会)	フジオ タダシ 藤尾 直史	×	従来から地区支援のために配置している地区担当職員が、第2層推進員をあわせて担い、各地区を担当しています。コーディネーター配置事業の地区支援ネットワーク会議、地域ケア会議等の様々な会議体を地区の状況に応じて参加し、地区内の課題についての提起、情報提供・共有、解決に向けた取組みの検討などに努めています。
5	一般社団法人 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会	マツイ シンゴ 松井 新吾	○	—
6		ヒラモト テツヤ 平本 哲也	○	コロナウイルスが5類へ変更後、ケアマネジャー等の業務も従前通りに戻った。会議や研修も参集して開催となっている。
7	茅ヶ崎市介護予防ボランティア	ヤマダ ヒロコ 山田 裕子	○	茅ヶ崎市介護予防ボランティアの活動として、主に高齢者を対象とした転倒予防教室のちがさき体操、各地域のコミュニティセンター、公民館等で月2回行っている移動が難しい方等に向けての懐かしい童謡を歌いながら行う「歌体操ねぼし(寝たきり防止)」、現在のご自身の健康状態を知る事で、今後の介護予防に役立てるフレイル予防教室等のボランティア活動に参加しています。コロナ禍で活動が中止になっていましたが、今年度は転倒予防教室19会場、フレイル予防教室10会場、歌体操は歌いながら体操を行う事が出来る様になりました。コロナ禍で活動中止の間にボランティア自身も高齢となり、活動を離れたり活動者の参加人数も減少しました。今まで中止してきたボランティアの養成講座が徐々に再開され、ボランティアの方が増える事が待ち望まれます。
8	社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会	ワカバヤシ ヒデトシ 若林 英俊	×	社協では、多様な福祉ニーズに応えるため、各種福祉相談事業を展開するほか、高齢者や障がい者、子育て中の親子が気軽に集える「ミニディ・サロン」の支援を行っています。また、ボランティア活動、地域活動の支援、各種講座の開催など、地域福祉の推進に取り組んでいます。令和4年度は担い手の関連では、学校や地域で福祉学習をすすめる福祉教育(出前講座)の依頼件数や、ボランティア講座などは増加が見られるなど、地域への参加、活動の広がりが見られました。
9	公益社団法人 茅ヶ崎市シルバー人材センター	オザワ シンイチ 小澤 伸一	○	当センターでは、社会参加の意欲のある健康な高齢者のために、就業等の活動機会を提供することで、生きがいの充実及び福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を活かしたか活力ある地域づくりに寄与することを目的とし、事業を実施しています。健康寿命が延びる中で、地域における高齢者の多様なニーズに応じ、高齢者が地域で働ける場や社会を支える活動ができる場の提供に努めています。また、当センターの社会活動としては、例年、市主催の海岸清掃への参加やシルバーの日の中央公園北側歩道部分の清掃活動などを行っています。
10	茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会	タジマ カズノリ 田島 一紀	○	介護・医療・保健・福祉などの側面から高齢者等を支える相談窓口です。住み慣れた地域で生活できるよう相談に応じています。また、地域ケア会議の開催やチームオレンジとして活動することで、地域課題にも取り組んでいます。
11	茅ヶ崎市地区社会福祉協議会連絡協議会	ホリウチ ヒデユキ 堀内 秀行	○	茅ヶ崎市の13地区の社会福祉協議会の代表で構成され、市社会福祉協議会と協力を密にし、地域住民の福祉向上を図ることを目的として、活動をしている。1.社会福祉に関する調査、研修 2.地区社会福祉協議会相互の福祉活動に関する連絡調整、情報交換 3.その他、目的達成のための必要な事業
12	茅ヶ崎市地区ボランティアセンター連絡会	スガヤ ワイチ 菅谷 和一	○	令和4年度活動実績 13地区ボランティアセンター登録者654名、相談件数4,124件、のべ時間11,773.75時間
13	茅ヶ崎ボランティア連絡会	ヒロタ コ 廣田 みつ子	○	活動：ボランティア大学の開催(5/11~6/22)45名受講、ボラだより(3月・7月・11月)、ボラまつり準備(11/23文化会館)、研修会(10/18)課題として、会員の高齢化と減少、個人情報保護法により情報が得られない。
14	茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会	タカヤマ カズシゲ 高山 和茂	○	茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会は、市全体を13地区に分け、それぞれのまちぢから協議会の連絡調整や、情報交換、行政からの依頼事項の周知・協力などを目的として、組織されている団体です。委員は各地区の会長、副会長26名で組織しています。各地区のまちぢから協議会は、自治会、地区社協、地区民児協、地区青少年育成推進協、地区体育振興会、など地域のさまざまな分野の活動団体の方々や、地域住民の方々が地域づくりを行っています。市内の全地域の多くの団体や住民が間接的にも参加していることから、市民の代表として、いろいろな分野の審議会委員を依頼されています。生活支援対象者(生活困窮者)のことも地域の重要な課題です。専門的なかわりを持っている方々の意見をお聞きし、地域の実情を話し合うことで、地域づくりに生かせたらと考えます。
15	茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会	イケダ フジオ 池田 富士夫	○	民生委員児童委員の団体は、日常は各委員が担当地域の中で、高齢者、障害を持つ方々の支援を必要とされる方々に「見守り、相談、関係機関につなぐ」活動を行っております。また、相談役として活動しています。コロナ禍により、そういった方々が孤立傾向にあたり、発見や支援の手が届くのが遅れがちになるのではないかと心配なところです。また、居場所づくり、交流の場であった地域サロンが運営者の高齢化などにより、休止、解散したりしているのは心配な点です。発災時の民生委員としての支援活動にも不安感が大きくあります。内部的には、まだまだ住民の民生委員に対する正しく、深い理解が望まれます。民生委員の欠員問題も大きな課題です。
16	茅ヶ崎市老人クラブ連合会	ツルタ クニオ 鶴田 國夫	○	5月31日ICT研修会(パソコン講習会初級①)・6月5日~6日会長宿泊研修会(愛知県、静岡県へ)6月22日春の植栽(市民文化会館の花壇)6月28日出張きずな~風船絵付け教室(南湖島井戸自治会館へ)7月25日出張きずな~うちわ絵付け、貼り絵教室(海風テラスへ)7月26日ICT研修会(パソコン講習会初級②)【課題】各クラブの会員数の減少と高齢化
17	特定非営利活動法人NPOサポートちがさき	コヤマ シンイチロウ 小山 紳一郎	×	ユースボランティア茅ヶ崎とは、市内在住の中学生から大学生を対象に、夏休み期間を利用して各種ボランティア体験を通じた青少年健全育成事業。福祉(高齢者/障がい者)、保育、子ども、環境保全(海岸/里山)、地域安全、国際、社会教育など、様々な分野の活動団体が学生を受け入れ、ボランティア体験活動を実施します。今年度は、163名の生徒がオリエンテーションに参加し、7月21日(金)~9月9日(土)にかけて、2日間以上、それぞれの団体でボランティア活動を体験します。

オブザーバー

	茅ヶ崎商工会議所	マヌダ ヨウコ 増田 陽子	○	商工会議所は、地域の商工業の改善、発展を目的として、市など一定地区内の商工業者によって組織される経済団体です。意見の公表、具申、検定試験、中小企業振興、商工会議所会員向け事業、地域振興、産業振興(検査・研究)、情報化推進(IT情報)など、企業活力の増進、魅力ある地域経済社会の創造に向けた様々な事業活動を展開しています。商工会議所が官民連携の結節点として重要な役割を担い、観光振興、都市再生、中心市街地活性化、地域に新たな付加価値を生む産業の育成やスタートアップ企業が成長していくために、地域の成長ポテンシャルを最大限に引き出すための取組みを一層推進していくことが重要と考えます。
--	----------	------------------	---	--